



三毛別罽事件を題材に
野生の熊と人間の闘いを描いた
ドキュメンタリー小説

小説「罽嵐」

作家吉村昭氏(1927-2006)の書き下ろし長編小説「罽嵐(くまあらし)」は昭和52年(1977年)5月、新潮社から第一巻が発行されました。地道な資料整理と現地調査、関係者からの聞き取りを重ね、緻密なノンフィクション作家として著名な吉村氏が、大正4年(1915年)12月に起きた三毛別罽事件を見事な筆力で書き下ろした作品で、恐怖におびえる住民と、ただ一人沈着にヒグマと対決する老練な猟師を浮き彫りにした読みごたえのある長編です。初版の帯にはこのような説明が書かれています。

「罽の原野を切開こうとする人間と、その開拓村を襲う一頭の罽。どちらが闖入者(ちんにゆうしゃ)だったのか?日本獣害史上最大の惨事は大正四年十二月に起こった。冬眠の時期を逸した罽がわずか二日間に六人の男女を殺害した(実際は七人)。鮮血に染まる雪、罽をひそめた闇、人骨を契る不気味な音…。恐怖におののく人間の愚かしくも滑稽な姿と、ただ一人沈着に罽と対決する狷介(けんかい)な老猟師の孤絶の姿を迫真の筆に描き出す」

小説「罽嵐」は苦前の開拓の歴史を振り返る意味でも貴重な一冊として話題を集め、昭和55年(1980年)には倉本聰氏によってラジオドラマ化(出演:高倉健、倍賞千恵子ほか)されました。さらに、同年にはテレビドラマ「恐怖!パニック!!人喰熊史上最大の惨劇罽嵐」(降旗康男演出、三國連太郎主演)にもなり、三毛別罽事件は一躍全国的に知られる事件となりました。小説の中にもありますが、「罽嵐」とは瞬間風速40mとも50mとも言われる暴風で、地元では熊を仕留めると、この風が吹くと言われています。

見どころ

地道な資料整理と現地調査、関係者からの聞き取りを重ね、見事な筆力で書き下ろされた作品です。

ポイント

ノンフィクション作家として著名な吉村氏が、大正4年(1915年)12月に起きた三毛別罽事件を見事な筆力で書き下ろした作品。史実に基づいた内容は話題を集め、ラジオドラマやテレビドラマ化されました。

五感で感じる! 風土資産の魅力

聴く 触る 味わう 嗅ぐ 知る

知る

吉村昭氏が小説「罽嵐」の参考にした事件の報告書「獣害史上最大の惨劇苦前罽事件」(昭和39年)は当時、旭川営林局農林技官だった木村盛武氏が4年の歳月をかけてまとめたもので、後に「慟哭の谷The Devil's Valley」として出版され、事件を知る上で重要な資料として今に伝えられています。

■基本情報 (R1.5)

『罽嵐』(新潮文庫吉村昭)
人気作家、吉村昭氏が三毛別罽事件を題材に、猛威を振るう自然と人間との闘いを描いたドキュメンタリー長編。